

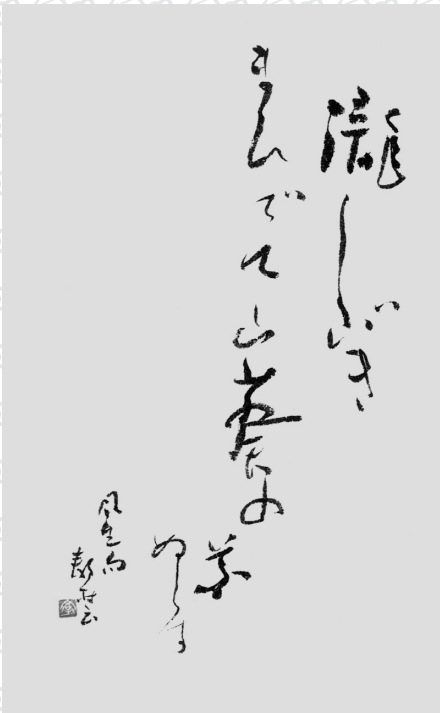
新春書選
丁酉

平岡華雪先生書



終年林下の人

鈴木静村先生書



瀧しぶさまひてて山葵の花濡らす
(富安風生)

高橋香樹会長書



南山寿

◆半紙二行たて書きに臨書して下さい。出品料430円

蜀素帖 米芾



- 1、字句〓送王渙之彦
- 2、形式〓半紙タテ使用。右に「送王渙」、左に「之彦」と二行に臨書し、余白に落款「〇〇臨」と調和を工夫し書き入れる。
- 3、概観〓「蜀素帖」も今月が最終回となります。過去に米芾の書を観た時、米芾は何て上手いんだろうと思ったことがあります。今回臨書部に「蜀素帖」を取り上げ、再度よく観察し臨書してみたところ、改めて米芾の卓越した技術を感じ取ることができました。
最初観た時は、左傾した文字が多いと感じましたが、臨書してみるとその左傾が気にならなくなりました。前半は長縦画に左傾した文字が目につきましたが、それ故か、躍動感・行に流れがあり変化多い作となっています。しかし、後半は左傾した長縦画が少なくなり、それと同時に行における変化・躍動感も少なくなったようです。「蜀素帖」の用筆は、じっくり学習する価値ある古典です。臨書部では最後までりますが、引き続き臨書されると得るものが多いと思います。
- 4、各字のポイント
 - 送 「关」の横への動き一定方向。之繞は厳しく。
 - 王 横画の方向変化。
 - 渙 三水強く。旁の横画は右肩上がり強く「大」の左右の払いの差大きい。
 - 之 一画目の点小さく。二画目の起筆・転折突いているが送筆は軽い。
 - 彦 横画の右肩上がり強い。「彡」は右へ移動。

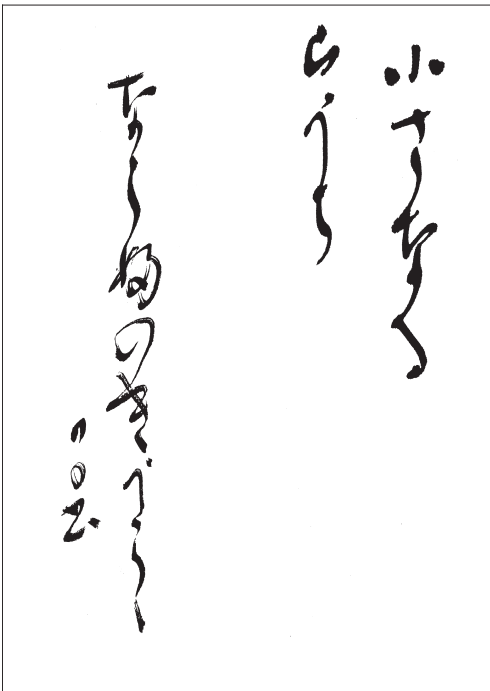
昇試第三部 (漢字・かな) (予告) (三月二十二日締切)



平岡華雪先生書 暖日黄金の柳(范成大)

訳：暖かい陽気に柳は芽ぶいてくる。

平岡華雪先生書 小さな山うちならふのきうらゝ(たかし)



「全国書苑の集い」

八〇〇号記念祝賀会

路川千擘

例年の「全国書苑の集い」は七月に行われていましたが、今回は八〇〇号記念祝賀会となり、十一月二十七日に開催されました。午前十一時、司会の石田愁華先生によって幕明けされ、小暮松華先生の開会のお言葉により開始されました。続いて高橋香樹会長のご挨拶となり、今後への抱負などお聞き致しました。その後、鈴木静村先生の一周忌に際し、全員で黙祷をささげ感謝とご冥福をお祈り致しました。続いて八〇〇号記念



誌上展授賞式が行われ、書苑大賞・会長賞・主幹賞・静村賞・香樹賞などの賞状、賞品が一人ひとりに授与されました。受賞者達は、大きな喜びと励みをいただいたことと思います。十一時三十分よりは、高橋会長、戸張丘先生、福田玉翔先生の席上揮毫があり、それぞれの書表現に手腕を奮われました。正午過ぎ北島善丘先生の乾杯音頭により会食が始まりました。会場は和やかな雰囲気となりました。来賓者のご挨拶をいただき、続いて同人、準同人、支部長紹介などが行われてお楽しみ抽選会となりました。五名の幸運者達が平岡華雪先生、高橋先生ご揮毫の額入り作品を頂戴して感激されていました。また、他の出席者全員にも、書苑会の温かいお心尽くしの半紙のプレゼントを頂き、有難いおみやげとなりました。祝賀会終盤は、四名の方の独唱で一層華やきを増し、石原春香先生の閉会の辞により、なごやかな祝



高橋会長

賀会は終了となりました。



『書苑』は昭和二十五年三月に創刊され、以来一回も休刊することもなく今日に至っています。昭和二十五年三月に創刊され、以来一回も休刊することもなく今日に至っています。ですが、その歳月を思い出すと、代々の会長、諸先生方、編集部の方々の苦勞の賜と思えます。心から御礼申し上げます。私も昭和三十五年の入会以来毎月いただく『書苑』を楽しみに励み歩んでまいりました。今



戸張先生



福田先生



高橋会長

後益々のご発展を心からお祈り申し上げます。

注目の人と書

第一回 池大雅

高橋 香樹

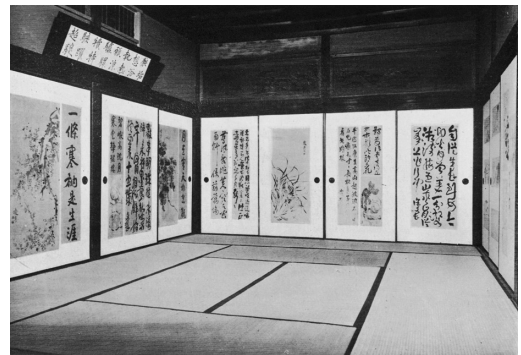
今や筆で文字を書くのは、書を勉強している人達だけといった感があります。しかし、過去を見てみると書家に限らず画家・作家・僧侶・政治家等が数多くの書作品を残しており、興味深い作も多々あります。このコーナーでは江戸以後の識者で私の好きな人と作を紹介していきたいと考えています。

第一回は、江戸期の画家として有名な「池大雅」を取り上げます。

池大雅（一七二二〜一七七六）は京都洛北深泥村に生まれ、名は無名。九霞山樵・大雅堂・竹居などと号し、富士山・立山・白山に登ってから三岳道者とも号した。書・画・篆刻に才を発揮し、桜閣山水図屏風・岳陽大観図屏風（いずれも東京国立博物館蔵）・高野山遍照光院の襖絵・与

謝蕪村との合作十便十宜帖等多数の作品を残している。

私は四十数年前に、三彩社発行の「大雅堂 中津自性寺の障屏画」を古書店で購入し、実作を見たいものと思い、九州に行った折、大分県中津市の自性寺を訪ねた。大雅の拝観を乞うと、室内を通って裏手にある書院に案内された。これが大雅堂である。十畳二間に、大雅の筆になる書と画が貼装されている。これらの書画は、襖に直接書いたものではなく、書いたものを貼ったとのこと。作品は書が二十三点、画が二十五点、合計四十八点（内、画一点は盗難にあい現作品数は四十七点）の多くを数える。また床の間には、当時の住職提州和尚と大雅の共通の師である白隠の富士山図がかけられている。部屋に入ると二百有余年の永きに

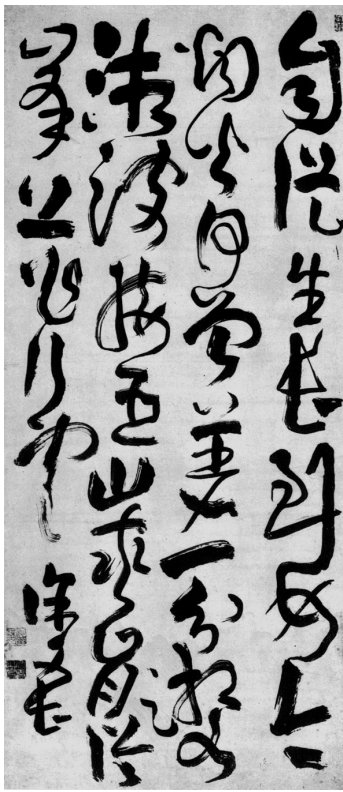
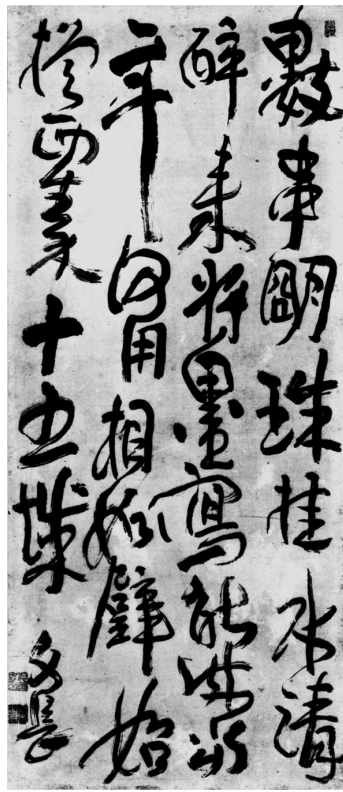


わたり保存されてきたこの作品群を眼の当たりにし、あまりの感激に立ち尽くしてしまった。案内の方が辞してから、じっくり観賞すると、そこには墨痕淋漓とした書と画が、襖中に躍動していた。私は一枚一枚懸命に観て廻った。ガラス越しでなく、直接観ることの出来る喜びと、今にも襲いかかってくるような迫力で圧倒された。心を落ちつけるように、畳の上に大の字に横たわり、書が画が自分に降りかかるのを受けとめようと、目を大きく見開いた。それま



で大雅の書は、印刷で数点見て、スケールの大きい書だなという程度であったが、せっかく九州に行くのだから、一度は観ておこうぐらいの気持ちだった。しかし、これらの作品群に取り囲まれ、思わず、「すごい」「すごい」を連発していた。

池大雅の画はあまりにも有名であるが、彼の作家としての序曲はまず、書に始まっているのは注目すべきである。大雅三歳の書「金山」が、京都西芳寺わきの池大雅美術館に保存されており、七歳のとき黄檗山万福



寺に詣でて、大字を書いて住持泉堂
 禅師や丈持大梅和尚から賞讃の偈を
 贈られている。その偈をみると、と
 もかくも天性の才能に恵まれていた
 ことが窺われる。書は、文徹明や董
 其昌を学び、さらに顔真卿に溯り、
 ついに四十歳すぎでから、王羲之の
 風を自己葉籠中のものとして大成し
 た。この自性寺大雅堂の作品は、三
 十代半ばから四十五、六歳頃までの
 ものといわれている。

今、顔真卿から王羲之にと書いた
 が、豪放でポリュームのある線は、
 確かに顔真卿の影響と思われること
 ろであり、結体を向性にかまえると
 ころも顔真卿の匂いを感じる。また、
 転折を広くとったり、線が交差する

ところを直角に近く運筆する方法は、
 王羲之を学んだが故と推察される。
 この向性の構えと相まって、懐の広
 い、おおらかでのびやかな書は出来
 上がったのだろう。

人間はひとりでは生きられない。
 大雅も非常に出会いを大切にし、そ
 れ故に師友に恵まれた。参禅したこ
 ともある白隠、師匠でもある柳里恭
 や祇園南海にかわいがられ、友人に
 は高芙蓉、韓天寿、与謝蕪村等当代
 一流芸術家がいいて、彼らとの交わり
 が大雅の人間性をますます高め、作
 品の幅を広くしていったはずだ。

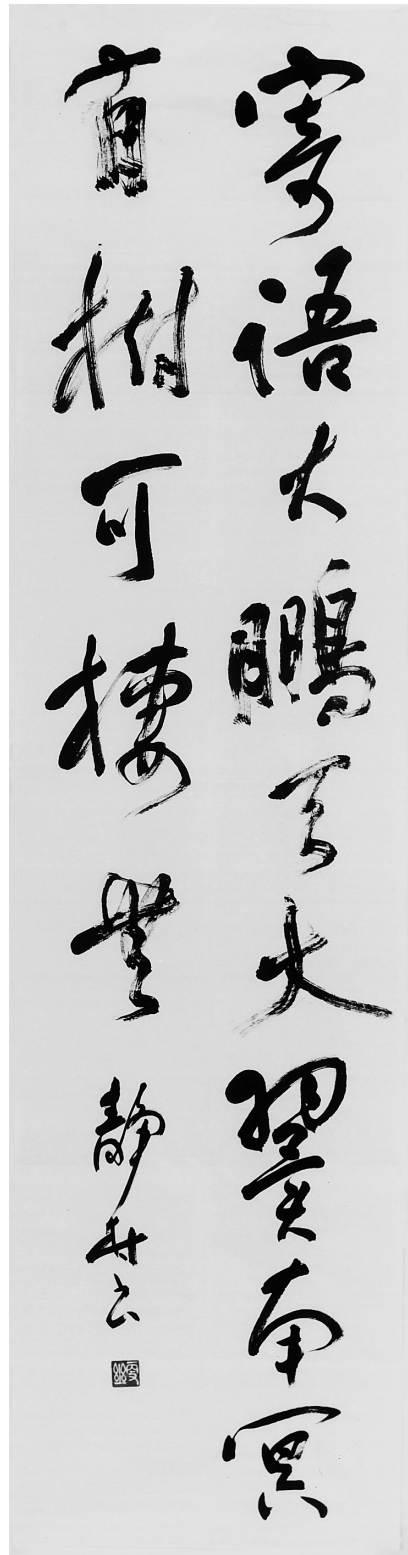
一時間程して自性寺を後にしたが、
 中津駅までの帰り道、想像以上の作
 品群に頭の中は大雅の書と画が入れ
 替わり浮かび足が地につ
 かなかった。

現在、大雅堂は展示場
 ができているようである。
 ガラスを通しての観賞と
 なってしまったが、再度
 訪ねてみたい。



A
鈴木静村先生書

寄語大鵬天大翼 南冥有樹可棲無 (頼山陽)
寄語す大鵬天大の翼。南冥樹の棲むべきもの有りや無や。



B
高橋香樹会长書

1、四号筆でムリを押して——代理部で扱っている「静村四号」を根元まで下ろし、濃墨をいっぱい含ませ、全開で書いたものです。初めは含墨が多いので、やや速めに連筆、墨量的にぼつたりとした感じの線になります。翼での墨継ぎを意識したため、大まで一筆でしたが、大字は渴筆というより「枯筆」の感。渴筆にムリの場合は、大と樹で墨継ぎを繰り上げます。筆毛の全面を丸ごと使わなければ、四〜五字は続けられません。みなさん、ぜひ挑戦してみてください。草体は字典で調べの確に。



印刷では渴筆が出にくいこともあり(長鋒では弾力を多く使う為渴筆が多くなる)、中鋒による書作を続けてきましたが、今回は長鋒にて書いてみました。久し振りの長鋒でしたが、やはり、思うようにはいきませんでした。渴筆の部分は見にくいと思いますが、不明瞭なところは字書にて確認して下さい。墨継ぎは「翼」と「樹」です。

訳：聞くとところによると大鵬の翼は天を覆うような大きさだったらしい。その大鵬が南冥に行ったとき、止まれるような大きな樹があったのだろうか。

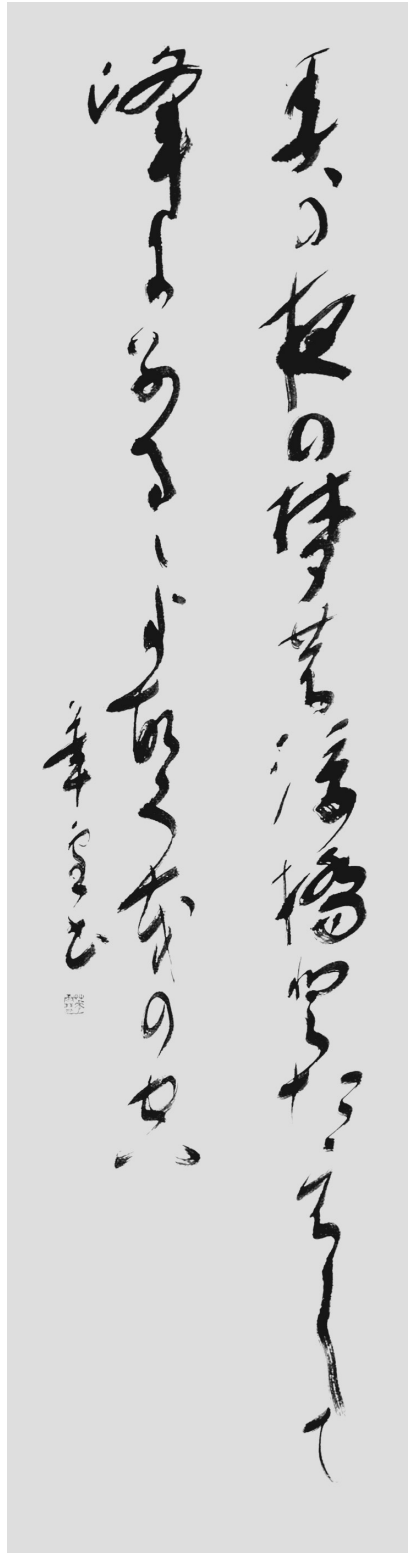
予告 昇試第一部漢字(三月二十二日締切) 山郭鶯啼春又暮 蕭齋人静澹無煙(李約)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品(バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

A

平岡華雪先生書

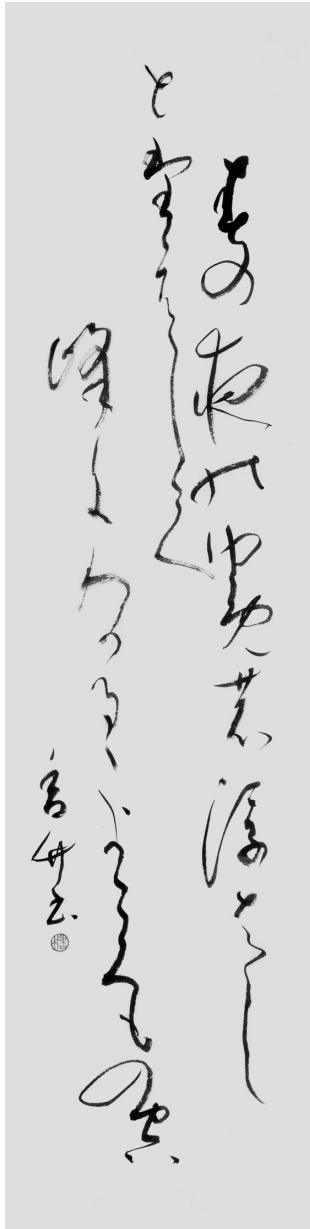
春の夜の夢の浮橋とだえして峰に別るる横雲の空(新古今和歌集 藤原定家)
春の夜の夢農浮橋登たえして峰に別る、よ故久茂の空



B

青柳香竹先生書

春の夜能ゆ免農浮者と堂えし天峰爾わ可る、よこ久もの空



学び方

華雪先生の作品は二行書きで左右の間を考えた作。「春の」は細く「峰爾」で幅を取っています。「登たえして」「し」は筆の開きがあり強い線質となっています。皆様も何度も書き込んでこの線を出してほしいですね。
Bは、少しうるさかったかもしれませんが、「と堂えし天」は幅のない線質で三行書きを試みました。「よこ久もの空」は墨を含ませて上部の重さと対称にしました。「の空」が少し大きすぎたかもしれませんが。

新古今和歌集は鎌倉初期の歌人の勅撰和歌集。後鳥羽院により源道真、藤原定家などが撰し、元久二年(一一〇五年)成立。仮名序・真名序があり歌数は二〇〇〇首。代表歌人は西行・慈円・藤原良経・藤原定家・式子内親王・寂蓮など。
藤原定家は鎌倉初期の歌人「新古今集」の撰者の一人。のち「新勅撰集」を撰し「源氏物語」などの古典の研究者としてもすぐれた業績を残した。

予告 昇試第一部かな(三月二十二日締切)

吹風と谷の水としなかりせば深山がくれの花を見ましや(古今和歌集)

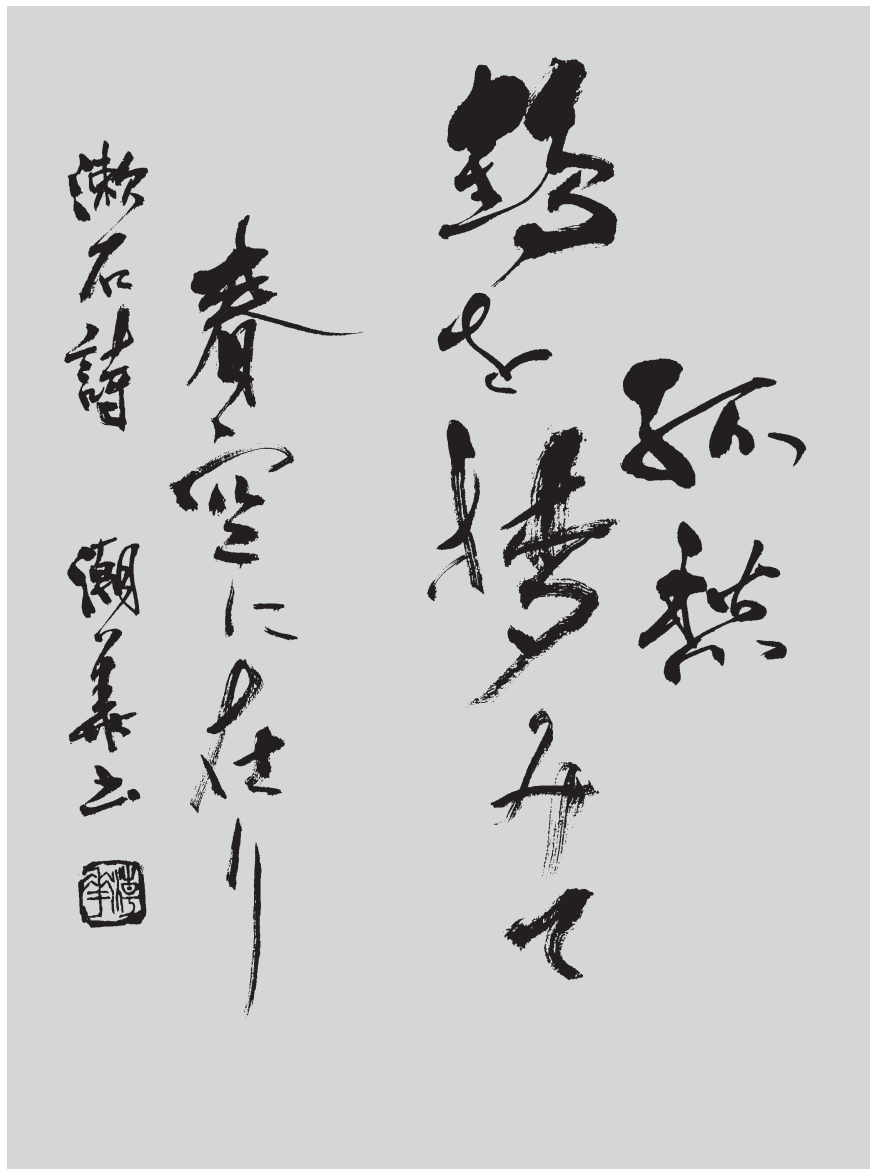
- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

水貝潮華先生書

孤愁 鶴を夢みて 春空に在り

夏目漱石

漱石没後一〇〇年にあたり、漱石の漢詩を漢字かな交じりで書いてみました。
三行書きの構成ですが、その中に起・承・転・結を考えて、平板で文字を並べただけの作品にならないよう、研究してみてください。



夏目漱石（一八六七
～一九一六）
「吾輩は猫である」
「坊ちゃん」「それから」
「こころ」など、
小説家としての活動を
続ける一方、少年
時代に漢学を二松学
舎で学び、学生時代
に始まり生涯にわた
り、多くの漢詩を作
った。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料540円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

来者は猶追う可し(論語)

訳：(過ぎ去ったことは改めようがないが)
今からのことは間に合う。

〈各字について〉

「者、可」古典には、この組み合わせが多い。「猶」ケモノ偏のスタイルはいろいろ、字典で調べるとよい。正字の「來」は、古典ではほとんど「来」。「追」
「目」と之繞しんじょうとのバランス注意。

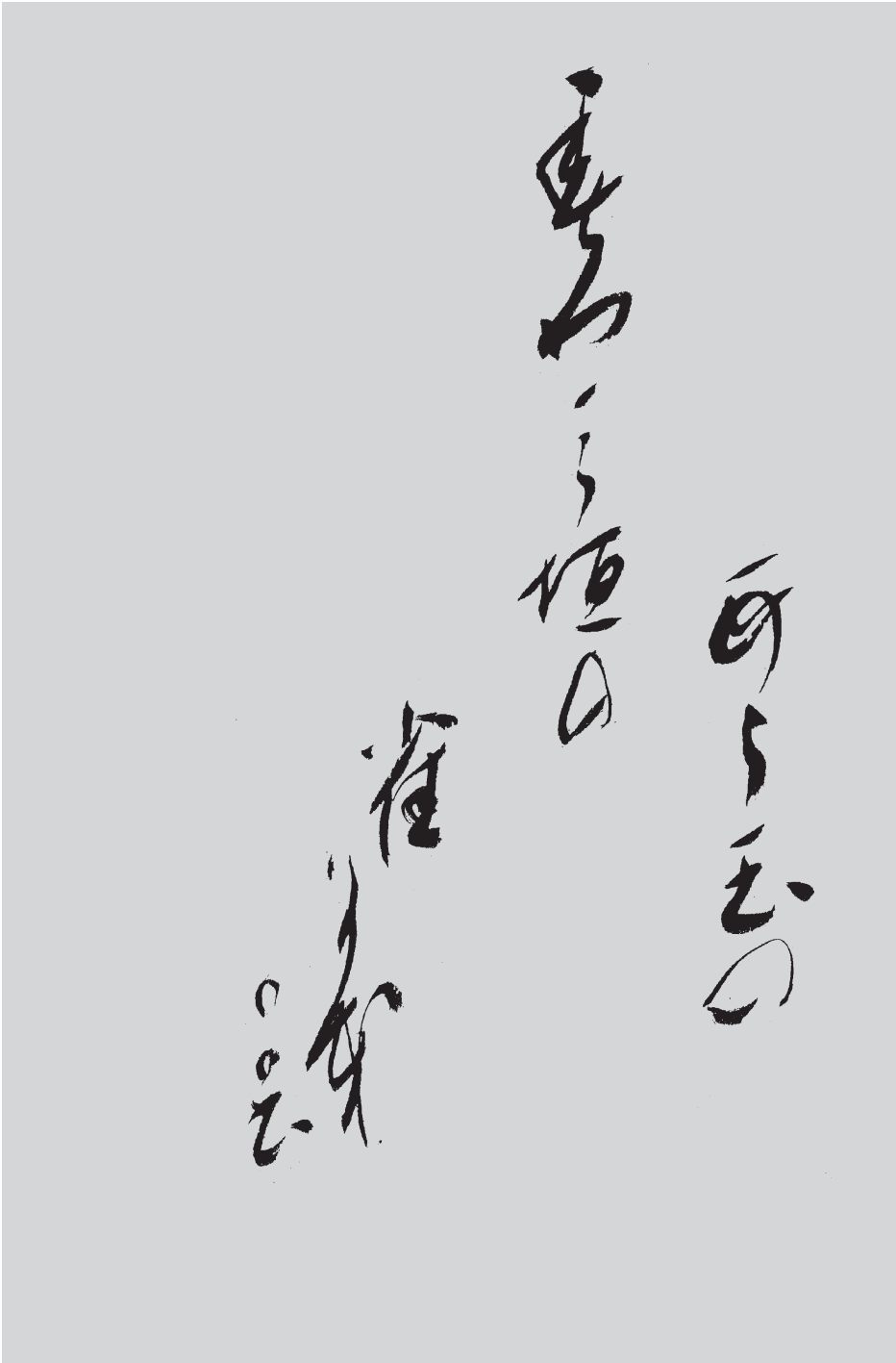


◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

平岡華雪先生書

あら玉の春や御垣の雀にも (北元)
あら玉の春や三垣みの雀にも



「あら玉の」を軽快なリズムで放ち書き。「ら」の腰を小さく書くのは常道、ここでは「う」と間違えぬように。「春や」を主調、「三垣の」渴筆が入ってくとよいが。「雀」一般には墨継ぎ。「尔茂」と寄せて変化をとり、「落款」も寄せ気味、この雀、尔茂、落款の群構成は終辺の処理として注目したい。

予告 昇試第二部かな (三月二十二日締切)

はるきぬと人はいへどもうぐひすのなかぬかぎりはあらじと思ふ (古今和歌集)

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。
①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

酒井香雨先生書

超騰若飛雪（李白）
超騰すること飛雪の若し

訳：跳びはねるさまは、舞い散る雪のよう。

超騰若飛雪
超騰若飛雪
超騰若飛雪

李白詩



予告 昇試第一部漢字（三月二十二日締切）

題詩留萬古（李白）

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円。



坦々忘懷易 浩々將我行 蠢々須公起

坦々として懷を忘るるは易し 浩々として將に我れ行かんとす 蠢々として公の起つのを須たん
心をひろびろとさせれば煩わしさは忘れられる。さあ、はるばると私は出発しよう、貴殿がごそごそと起きあがるのを待とう。

※随意部参考（半紙・条幅）としてもご活用下さい。抜粋可。

随意部半紙は無料。随意部条幅は一枚目無料、二枚目から五四〇円。

一字書（二月二十二日締切）

課題

愛

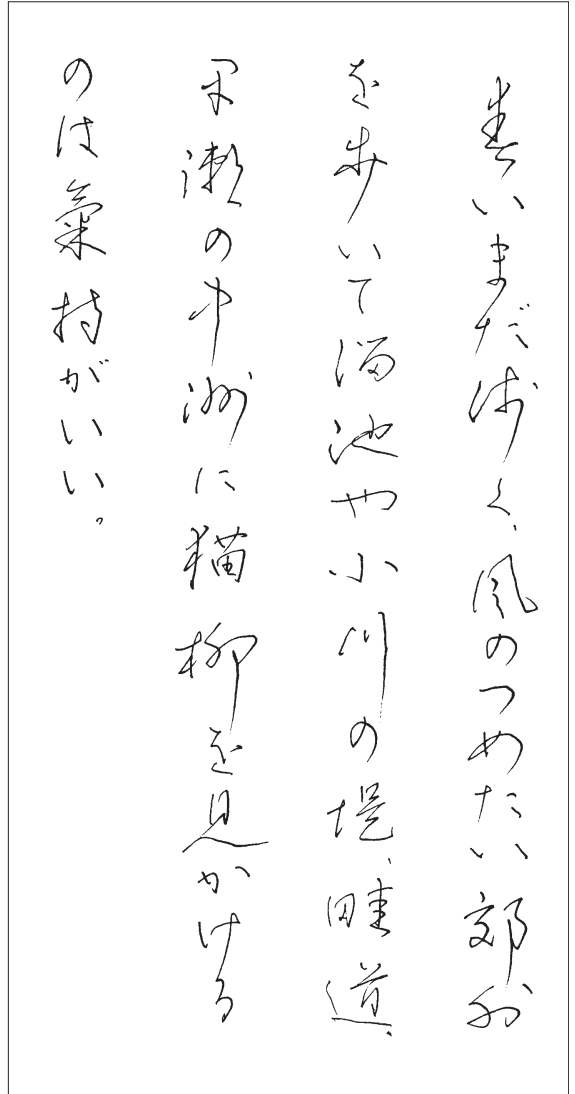
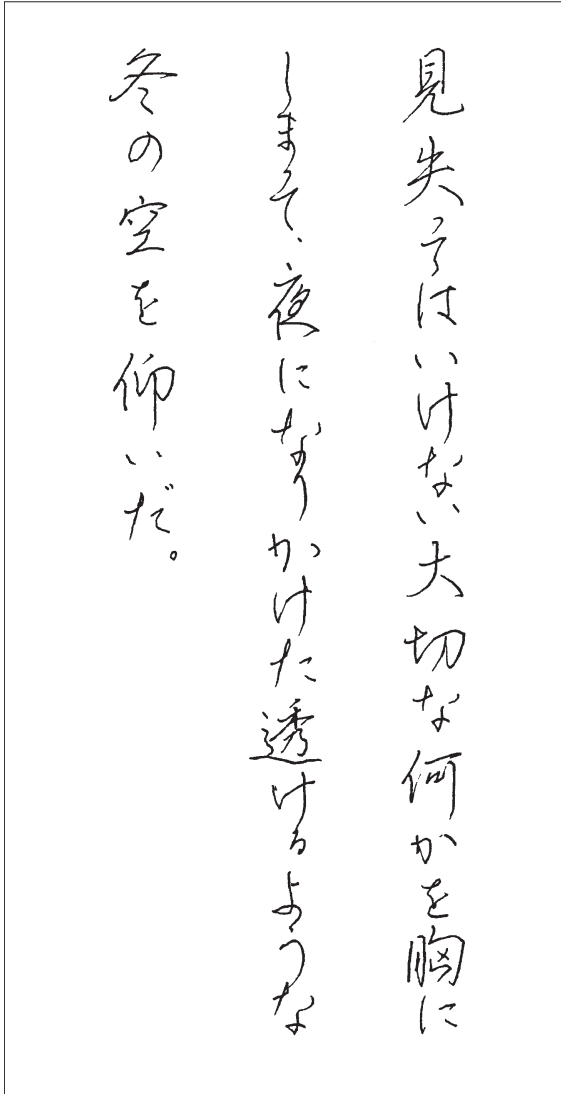
- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ ※ヨコは中止
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四三〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に
一字と記入 段級は無記入

川上香蓉先生書

石原春香先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)



課題1 (初段階以上)

春はまだ浅く、風のつめたい郊外
を歩いて溜池なみけや小川の堤、畦道あぜみち、早
瀬せの中洲なかすに猫柳を見かけるのは気持
がいい。

「花ごよみ」 杉本秀太郎

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四三〇円
- (6) 昇試規定は裏表紙を参照の事。

課題2 (初段階以下)

見失うはいけない大切な何かを胸
にしまつて、夜になりかけた透ける
ような冬の空を仰いだ。

「そら いろいろ」 小澤 征良